



2026年12月期 第3四半期 決算補足説明資料

2026年 10月29日

 **立川ブラインド工業株式会社**

(東京証券取引所 プライム市場 証券コード 7989)

1. 2026年12月期 第3四半期決算概況 P.03
2. 2026年12月期 業績予想 P.10

1. 2026年第3四半期決算概況

- ・ 第3四半期累計期間における売上高は、主力の室内外装品関連事業が前年並みとなるも、
駐車場装置関連事業、減速機関連事業において大幅な増収となった
- ・ 売上高の増加に加え、販売価格の改定効果や経費削減効果等もあり、各段階利益とも増益となった

2. 2026年12月期 業績予想

- ・ 中東情勢の緊迫化により供給面での不安定さが生じるなか、調達コストに影響が生じており、
原材料価格の高騰に対しては販売価格の改定を順次実施
- ・ 連結業績予想については、現時点において2026年2月10日に公表した予想の変更なし
(今後、状況の変化により連結業績予想を修正する必要がある場合は、速やかに公表)



1. 2026年12月期 第3四半期決算概況

- ・主力の室内外装品関連事業の売上高は前年並みとなるも、駐車場装置関連事業、減速機関連事業で増収
(売上高前年比：室内外装品関連事業99.7%、駐車場装置関連事業177.6%、減速機関連事業113.5%)
駐車場装置関連事業ではパズルタワーの新設物件の増加などがあり、大幅な増収となった
- ・原材料価格の高騰等により売上総利益率は低下したが、広告宣伝費等の販管費の減少があり増益

(単位：百万円)

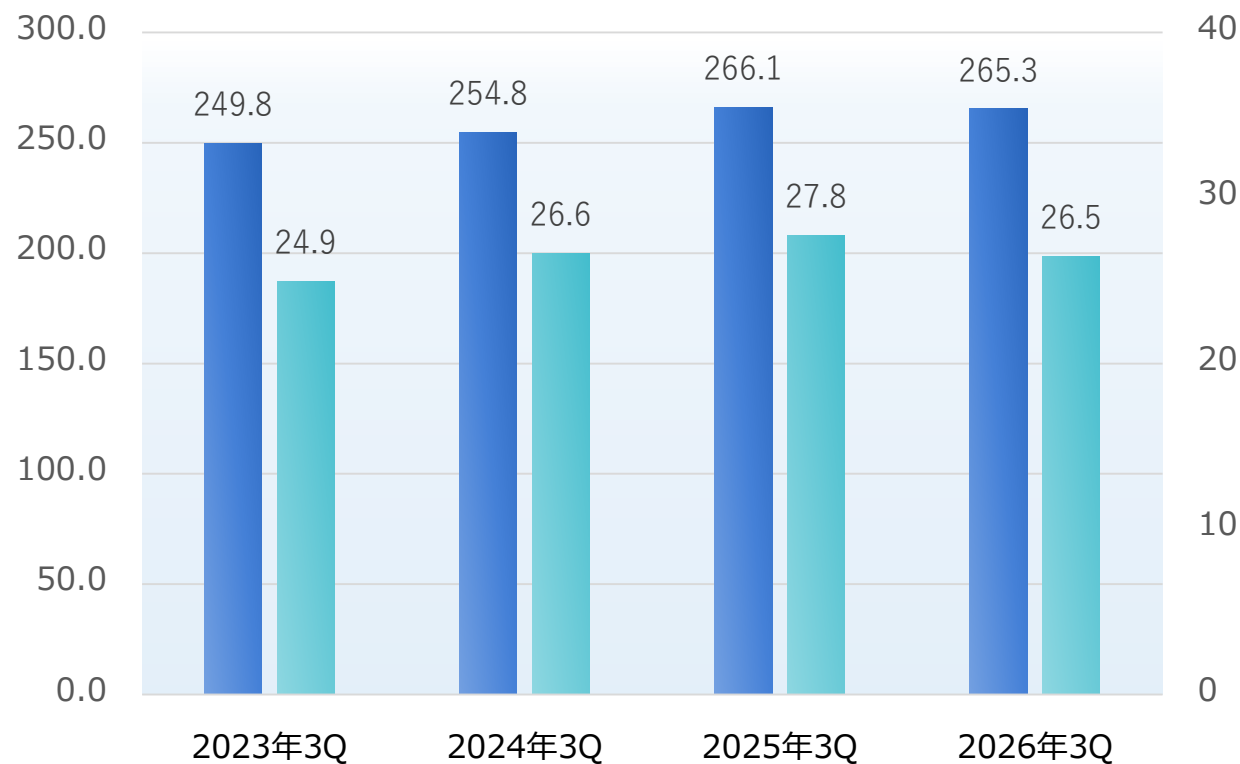
	2026年度第3四半期			2025年度第3四半期	
	金額	構成比	前年比	金額	構成比
売 上 高	32,845	100.0%	▲ 105.7%	31,081	100.0%
売上総利益	13,186	40.1%	▲ 101.6%	12,977	41.8%
販売費及び一般管理費	9,736	29.6%	99.2%	9,816	31.6%
営 業 利 益	3,449	10.5%	▲ 109.1%	3,160	10.2%
経 常 利 益	3,631	11.1%	▲ 110.4%	3,288	10.6%
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	2,387	7.3%	▲ 101.2%	2,358	7.6%

室内外装品関連事業

- ・ファブリック製品のリニューアルや、電動製品の強化など、顧客のニーズに合わせた機能を追加
- ・調光ファブリック製品、家庭用電動製品の売上高が伸長するも、非住宅物件の減少等により、全体では減収
- ・販売価格改定の実施や、販管費の抑制に努めたものの、下期以降の原材料高騰影響が大きく、営業利益は減益

売上高：億円

利益：億円



売上高

前年比

265億28百万円

99.7%

営業利益

前年比

26億45百万円

95.3%

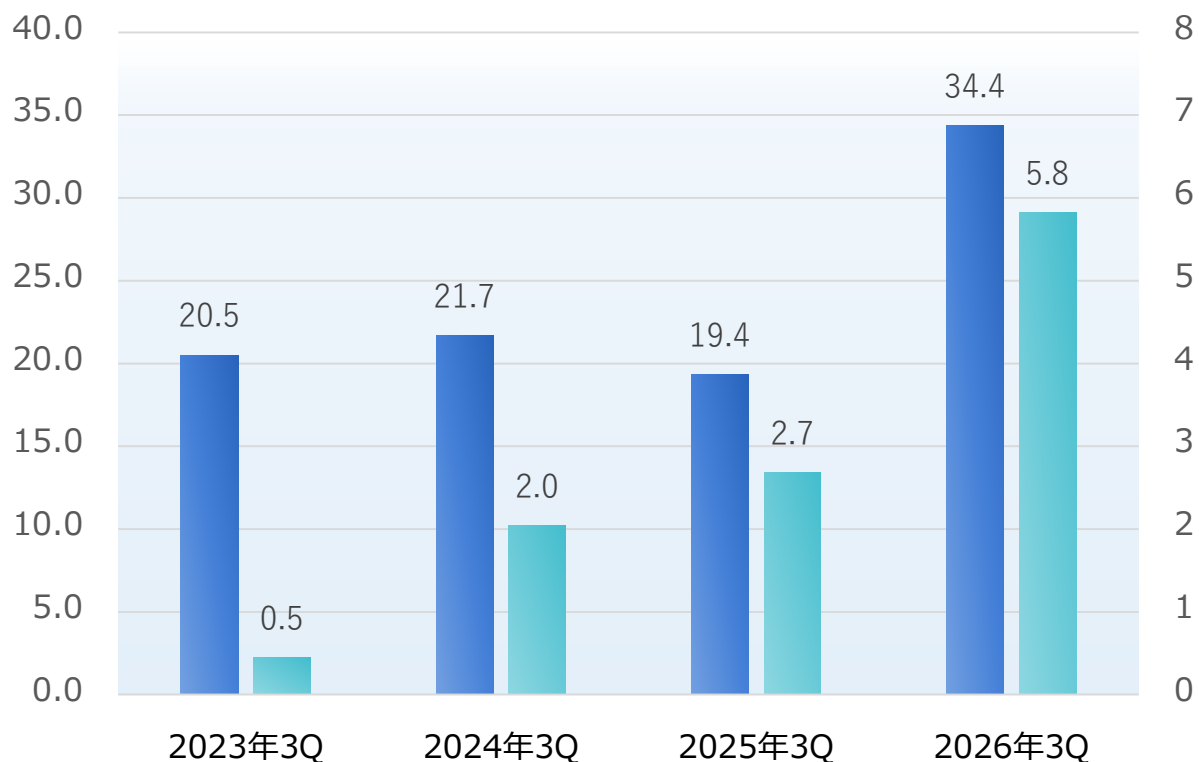


駐車場装置関連事業

- ・ 立体駐車場を併設するホテル建設の増加に伴い受注が好調に推移し、パズルタワーの新設物件の売上高が増加
- ・ 既設物件に対する改造改修案件は付加価値提案を強化し売上高が増加
- ・ 売上高の大幅な増加や、利益率の高い改造改修案件の売上計上により、営業利益は大幅に増益

売上高：億円

利益：億円



売上高

前年比

34億37百万円

177.6%

営業利益

前年比

5億82百万円

216.9%



・ パズルタワー 製品特徴

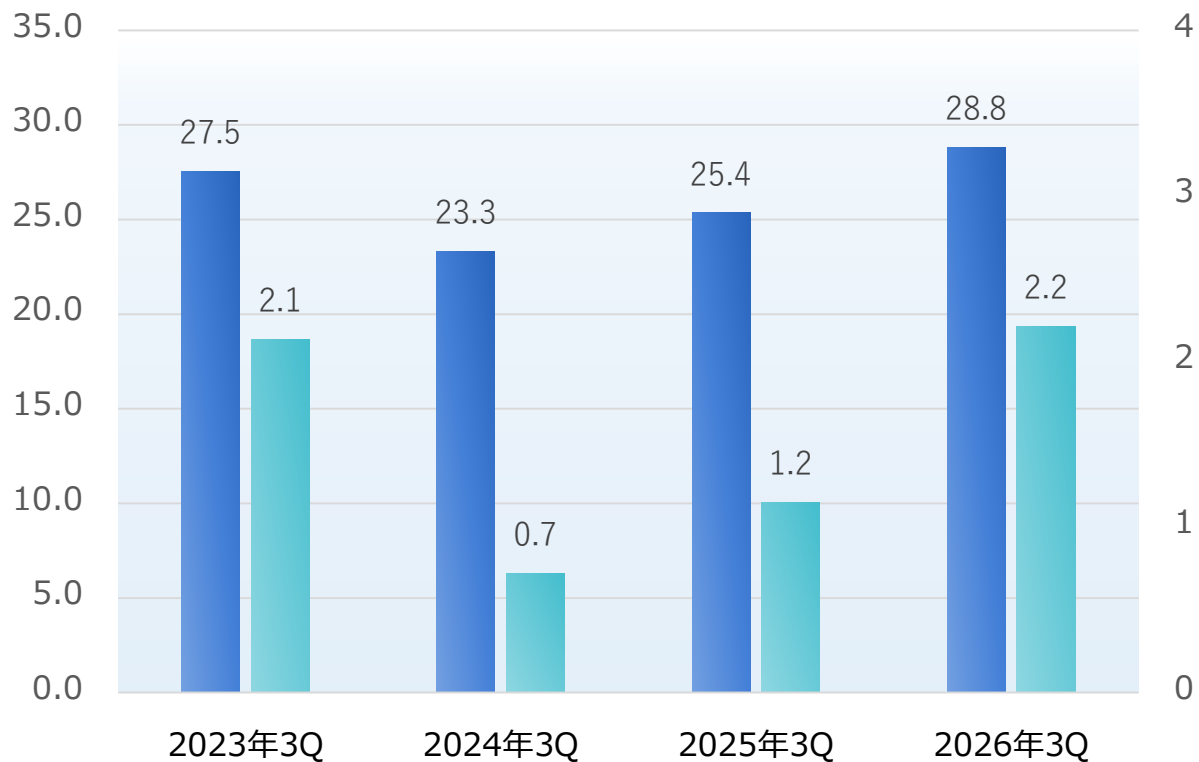
機能	特徴
くし歯式	ハイスピードな入出庫が可能 省電力（パレット式の1/2）、 高耐震性
オートゲート クローズ システム	各センサによる安全確認で 自動でゲートが閉まり、 閉め忘れを防止
Web出庫 予約	スマホなどで出庫 予約登録をすると 出庫の待ち時間を短縮

減速機関連事業

- ・ 工作機械市況が回復する中、価格改定効果もあり、汎用減速機の売上高が増加
- ・ 世界的な半導体需要の増加に伴い、半導体生産工場に納品する天井走行式自動搬送台車用の減速機売上高が増加
- ・ 売上高の増加や、前年に実施した汎用減速機の価格改定効果により、営業利益は大幅に増益

売上高：億円

利益：億円



売上高

前年比

28億79百万円

113.5%

営業利益

前年比

2億21百万円

191.6%



・減速機 主な製品の特徴

製品	市場	使用例
汎用減速機	生産工場	工作機械、コンベア 食品・医療 製造設備
半導体搬送用 ギアードモータ	半導体 生産工場	天井走行式 自動搬送台車
バッテリー 駆動用AC サーボモータ	無人搬送 台車(AGV)	大型高荷重 AGV 大型牽引台車

- ・ 支店建設用の土地、札幌製作所の建設工事などの設備投資や、社債の購入等により固定資産が増加
- ・ 政策保有株式の時価上昇に伴い、投資有価証券及び有価証券評価差額金が増加

単位：百万円

項目	2025年 12月末	2026年 9月末	増減	主な増減要因
流動資産	41,228 (60.9%)	38,045 (56.1%)	△3,182	現預金△2,195、売上債権△2,082、棚卸資産＋558
固定資産	26,506 (39.1%)	29,829 (43.9%)	＋3,323	有形固定資産＋1,252（支店建設用土地、札幌製作所建設） 投資有価証券＋2,048（株価上昇、社債購入）
流動負債	8,669 (12.8%)	6,836 (10.1%)	△1,832	支払債務△1,072
固定負債	2,712 (4.0%)	3,233 (4.8%)	＋520	
純資産	56,353 (83.2%)	57,805 (85.2%)	＋1,452	利益剰余金＋377（利益計上、前期末配当及び当期中間配当） 有価証券評価差額金＋1,073
総資産	67,735 (100.0%)	67,875 (100.0%)	＋140	

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは堅調に増加
- ・ 現預金は支店建設用の土地や、札幌製作所移転計画の建設費用の支払、社債購入、配当金の支払により減少

単位：百万円

項目	2025年 3Q	2026年 3Q	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	+ 3,469	+ 3,681	● 営業活動 ・ 税金等調整前利益 + 3,610 ・ 売上債権の減少 + 2,060 ・ 棚卸資産の増加 Δ 552 ・ 法人税の支払 Δ 1,694
投資活動による キャッシュ・フロー	Δ 3,066	Δ 3,226	● 投資活動 ・ 有形固定資産の取得 Δ 2,624（支店建設用土地、札幌製作所建設） ・ 無形固定資産の取得 Δ 411 ・ 投資有価証券の取得 Δ 996（社債購入） ・ 定期預金 + 599
財務活動による キャッシュ・フロー	Δ 1,087	Δ 2,064	
現金及び現金同等物の 増減額	Δ 695	Δ 1,595	● 財務活動 ・ 配当金の支払 Δ 2,008（前期末配当及び当期中間配当）
現金及び現金同等物の 期末残高	14,281	13,519	



2. 2026年12月期 業績予想

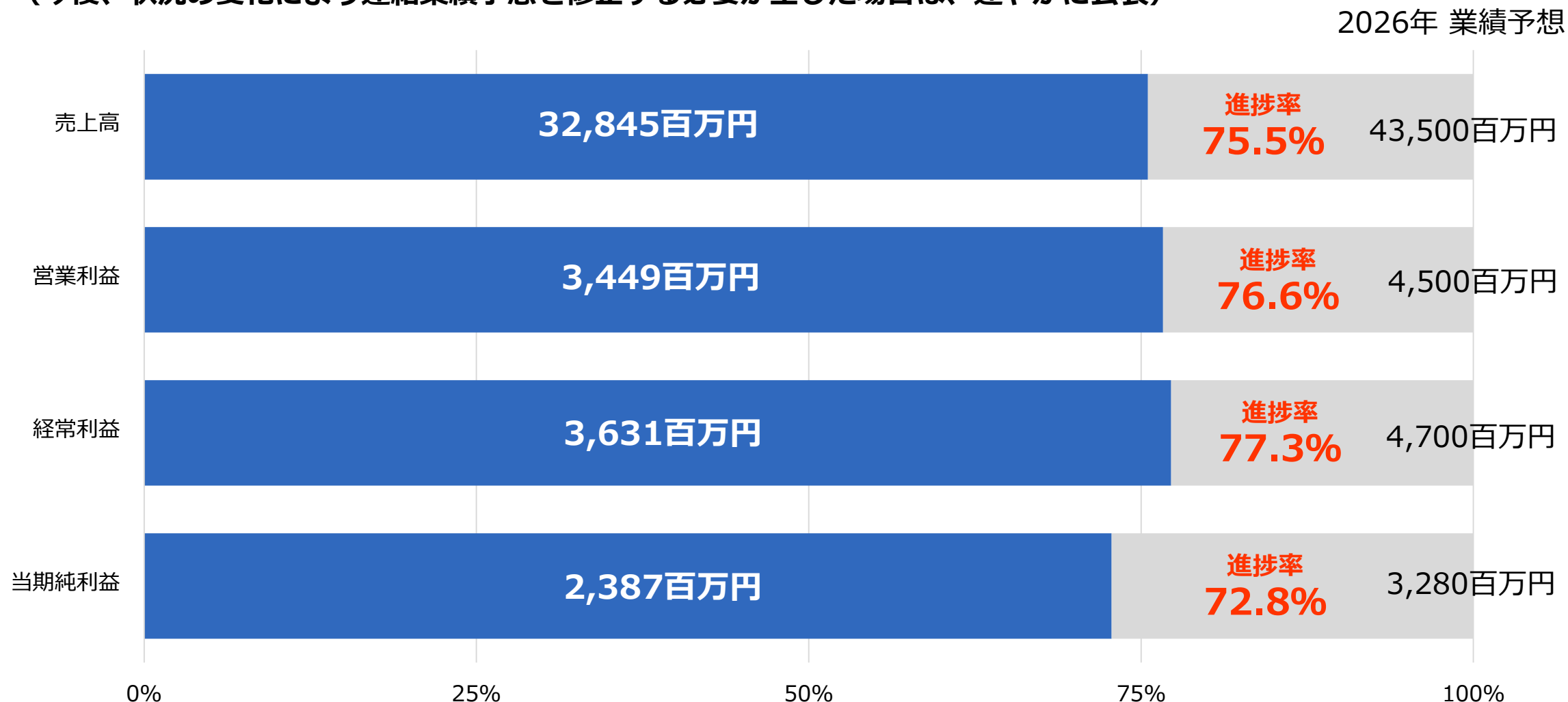
2026年第3四半期累計期間の業績は好調に推移するも、中東情勢の緊迫化により供給面での不安定さから、調達コストに影響が生じており、原材料価格の高騰に対しては販売価格の改定を順次実施
連結業績予想については、現時点において2026年2月10日に公表した予想を据え置き

単位：百万円

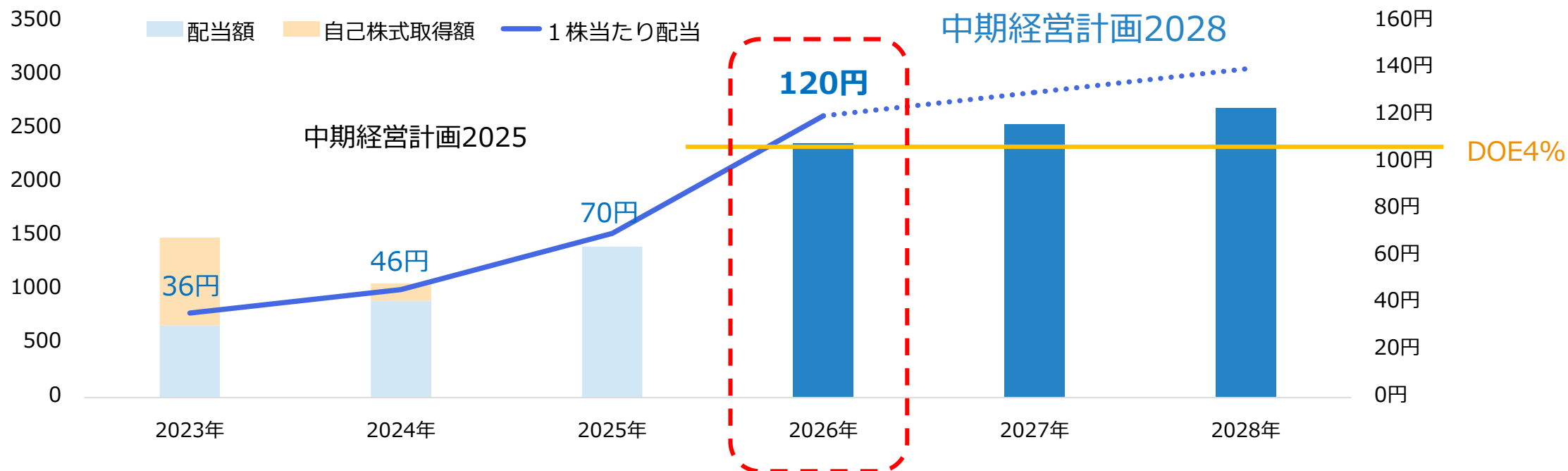
連結業績	2024年	2025年	2026年	
			業績予想	前年比
売上高	41,407	42,623	43,500	102.0%
営業利益	4,361	4,411	4,500	102.0%
利益率	10.5%	10.3%	10.3%	
経常利益	4,376	4,629	4,700	101.5%
利益率	10.6%	10.9%	10.8%	
当期純利益	2,802	3,239	3,280	101.2%
利益率	6.8%	7.6%	7.5%	

【業績の進捗】業績は堅調に推移しており、年初予想の達成を見据えている。

（今後、状況の変化により連結業績予想を修正する必要がある場合は、速やかに公表）



単位：百万円



累進配当の継続

業績の成長に伴い配当を維持・増配する「累進配当」を実施
増配ペースは状況を見ながら検討

DOE基準の導入 (下限4.0%)

純資産配当率（DOE）4.0%
を下限に設定
業績変動に左右されない、
強固で安定的な配当基盤を実施

1株120円以上の 年間配当をコミット

2026年度は、左記方針に
基づき1株当たり年間120円
の配当を実施予定

機動的な 自己株式取得の検討

資本効率向上と1株当たり
利益（EPS）上昇のため、
自社株買いの柔軟かつ機動的
な実施を検討

将来見通し等に関する注意事項

本資料における当社グループの今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。

〔 東京証券取引所 プライム市場 証券コード7989 〕

【お問合せ先】 経理部 IR推進課
03-5484-6128 / tachikawa-ir@blind.co.jp
<https://www.blind.co.jp>